ウラヌス陥落

捕まった外部戦士①

―無限学園に調査のために単独潜入した
セーラーウラヌスだったが
あっけなく敵に拘束されてしまう―

ふふふっ
油断したなセーラーウラヌス
テレビにも出演できない
小物の俺たちに捕まるとはな

ふんっ！ 無限学園の情報を得るために
自ら捕まったまでだ 予想通り
デス・バスターズと関わりがあったようだな

その余裕がいつまで続くかな
じっくりと必要な情報を
お前から聞き出してやるぞ

冗談だろ
僕が口を割ると思うのか？

キリ…

おおっ 怖いなあ
やっぱり すぐに開放しようか？

口で駄目なら
身体に聞くまでだ

なにをしようとも無駄だ
僕の身体に 指一本でも触れてみろ
貴様らに夜明けは
訪れないと覚悟しろ

気圧されているんじゃないよ
だから お前は
下っ端のままなんだよ

どうした 女の乳房は見たことがないのか？
さっさと帰って ママのミルクでも
飲んだらどうだ

うっ

余計なお世話だ
貴様たちには関係のない話だ

ポロリ

形のいい乳房だ
リボンで隠すなんてもったいないぞ

そうでもないぞ
すぐに無関係とは
言っていられなくなるからな

うっ！
触るんじゃない

デス・バスターズ特製ローションだ
身体に塗ると気持ちいいぞ
胸にたっぷり擦り込んでやるから
リラックスして楽しんでくれ

おっ これは想像以上に
ボリュームがあって
もみごたえのあるおっぱいだ

ぐっ

ムニュ

モギュ

ふんっ！ こんなものに
僕が影響される
はずがないだろう

触り方が拙いな
経験不足だ
出直してこい

いいなあ
俺にも触らせてくれよ

いや
お前は駄目だ
本人に
聞いてみろよ

あはは
拒否されちゃったよ

ウラヌスさん
俺も触ってもいいかな？

ビクッ

ギュミ

クニッ

なんだよ
乳首を勃起させて
誘っているくせにさ

おっぱいマッサージはこんなものかな
ローションの効果はすぐに現れるはずだ
さて次はどこかな・・・

ぐっ

安心してくれ ウラヌスの
期待に 頑張って応えるからな

待て まだ 一線は越えていない
解放するなら 今のうちだぞ

くっ 貴様ら・・・

我々の組織の情報では
セーラー戦士のピュアな心の中に タリスマンが
宿っている可能性が考慮されている

えっ

僕の中にタリスマンが？
そんなはずがない！

下っ端の我々が
タリスマンを見つけられたら
大出世のチャンスだ
調べさせてもらうぞ

この中にあるかもしれない
念入りに調べないとな

もちろん おまんこの粘膜にも
ローションを塗ってやるぞ

うっ くぐっ！
どこを触っている！

あっ そこはダメだ！

しっかりと
擦り込まないとな

ううっ 触るな！
ああっ 中に指を
入れるんじゃない！！

あっ

くっ

あっ

クチュ

クチュ

クチュ

気のせいかな ずいぶんと
いやらしい音がするなあ

おっ 怖いねえ
おや 顔が上気して赤いぞ
もう ローションの反応が
出てきたようだな
これから楽しくなるぞ
期待してくれ

ああっ 止めろ
中で指を動かすな
そんな音を立てるんじゃない！

貴様らの顔は
地の果てまでも追い詰めて
全員 殺してやるからな

ああ それは楽しみだ
だが お前は下手だ
続けるのなら
他の誰かに代わってくれ

くっ よせ お前は
どこを触っている！

もちろん 尻の穴だ
当然 こっちの穴も
調べる必要があるからな

ほら 肛門に力を入れるんじゃない
まあ無理にでも
こじ開けるんだがな

うっ 指を入れるな
ひっ 中で指を動かすな
あっ あああっ
かき回すんじゃない・・・

ひっ
んっ
クチュ
ズブ
ヌプ
クチュ

無様な姿だな ところで
どうして今日は単独行動なんだ
いつも仲間が一緒にいるだろう

駄目だ！
彼女を巻き込むわけにはいかない
お前たちは僕が相手をする
彼女に手は出すな

うう

名前は確か
セーラーネプチューンだ
彼女を呼び出し
ウラヌスの痴態を
見てもらおうじゃないか

必死だな
まあいい
今日はウラヌスだけで
十分だろう

ズブ
ズブ
ヌプ
ヌプ

まだタリスマンは
見つからないな
尻の穴はどうだ

ああ こっちにもないようだ
とこ ろでタリスマンは
どんな形なんだ？

えっ 俺は知らないぞ
まあ出現したら
それとなくわかるだろう

ううっ くっ ぐっ…
指を動かすな
気持ち悪い…
うっ！ くぐっ！

おやっ こいつ 今
イッているんじゃないか？

ああ 膣が収縮して指を締め付けてくるぞ
必死に感じていないふりをしているが
やっぱり 去勢を張っているだけじゃないか

あっ

あっ

ズプ

ニ

いや 気のせいだ
まったく気持ちよくないぞ

よし 前と後ろで
タイミングを合わせて
派手にイカせてやろうぜ

おっ

おっ

おっ

あっ 駄目だ
止めてくれ
あっ ああっ
大きいのが来る！

おっと 感極まってお漏らしか
いや 潮吹きかな
いずれにしても
呆気なく無様に果てたな

まて 止めろ
これ以上されると
我慢できない

やっぱり
我慢していたんだな

ズプ

ズニ

ズニ

ううっ
僕は負けない…

プシャー

くっ そんなものを近づけるな！

フェラチオで射精に導ければ解放してやろう

身体が火照って 我慢ができないだろうウラヌスに塗ったローションは媚薬の一種だ諦めて 快楽に身を委ねろさあ 観念してこれをくわえろ

ズニー

そんな話を信用できるか

良いから咥えるんだよ！

うっ
うぐぐっ！

悔しい・・・
こんな下衆な男のペニスを
口にするなんて

セーラー戦士の
喉まんこサイコー

うぐぐ

カプッ

タリスマンは見つからないが
喉の締め付けが
気持ちいいぞ

うっ 苦しい
喉の奥まで突っ込まれて
息ができない・・・

くちびるをすぼめて
休む暇はないぞ
もっと舌を動かせ

ペニスをしごくんだ

俺の精液が欲しいんだろ
ガンガン喉奥に突っ込んでやるぞ
覚悟しろ

ぐっ
うっ
クプッ
カポッ

僕を射精のための道具のように使って
こいつらは絶対に許さない！
出すぞ！
ちゃんと味わって
飲むんだぞ
ゔっ
ドプッ
さすが セーラー戦士だ
喉の奥まで突っ込んでも
平気らしいぞ
ううっ 喉に絡んで
酷い味と匂いだ
だがもっと精液が欲しい・・・
えっ 僕は何を考えているんだ

はあはあはあ・・・
要求通り 射精させたぞ
さあ解放しろ！

ひとりで終わりとは言っていないぞ
タリスマンはまだ見つかっていない
俺たちの仲間は大勢いる
まだまだタリスマンを探す
相手をしてもらう

んっ どうした？
俺のペニスを凝視して
もしかして
もっと精液が欲しいのか？

くっ
そんなことは・・・

ペロ

心配するな
俺たちの
仲間は大勢いるぞ

うくっ・・・

どうした
精液が欲しいのか?

ああ 欲しい

さっきまでの威勢のよさは
すっかり消えてしまったな

無様が格好だ
舌を伸ばして
ちんぽおしゃぶりを
懇願しているぞ

あ～

僕だってこんなことは
したくない だが身体が
火照って仕方がないんだ

つぅ

この女 すっかり
発情しているな

さあ 舐めてみろ
どうだ うまいか

んっ

はっ

はっ

Rd

しっ しっ

精液を飲ませたら
スイッチが入ってしまった
ローションの副作用らしい

ああ 美味しい
もっと舐めさせてくれ

拘束は解いたぞ
逃げないのか？

いいぞ 誰の
精液が欲しいんだ

あっ

すぐに逃げるさ
だがその前に
お前達の精液を飲ませてくれ
ううっ 悔しい・・・

どうしてなんだ
どのペニスも
雄々しく反りかえって
魅力的に見える
まずはお前からだ

ああ どんどん涎が溢れてくる
こいつの精液が欲しい

激しいフェラチオだ
俺のちんぽに吸い付いて
一心不乱におしゃぶりしているぞ

うっうっ 悔しい
だがペニスが愛おしくてたまらない
このペニスの精液が欲しい

覚悟しろ
射精するまで
解放してもらえないぞ

あはは不細工な顔だ
美少女戦士は返上だな

射精するぞ
大切な精液だ
しっかり受け止めるんだぞ

ああっ
いっせいに大量の精液が！
飲みきれないほどだ

ビュッ

ビュル

ドプッ

だったら俺たちは
同時に顔めがけて
ぶっかけてやろうぜ

こんな屈辱的な行為に
僕は喜びを感じている
気持ちいい
もっと射精してくれ！

なんなんだ
その凶悪で禍々しいものは！
そんなもので僕を犯す気か!?

無理だ！
そんな大きなものが
入るわけがないだろう

ひっ

一犯す？
これは検査だぞ
おまんこの奥にタリスマンが
封印されているかもしれない
俺の巨根で
おまんこの隅々まで検査してやろう

問題ない
実際に挿入して
証明してやろう

ズボッ

まっ 待て！
僕は処女なんだ
うぐっ
入ってくる！

こんな行為
僕は絶対に認めないぞ
あっあああっ
中で動かすな
すぐに僕の中から出ていけ！

あぁっ んあっ
・・・だから
僕の中で勝手に
動くんじゃない！

良い反応だ
おまんこが俺のちんぽに反応して
嬉しそうに締め付けてくるぞ

ズニ
ズブブ

あっ そんな・・・
おぞましいペニスが
僕を蹂躙しているのに
どうしてこんなに
気持ちいいんだ

貴様たちが使った
妙な塗り薬のせいだ
身体が勝手に感じてしまう
さっさと射精しろ！

はっ

おっ

俺とのセックスが
そんなにいいのか？
身体の相性が抜群なんだよ
素直にセックスを楽しめ
いや身体検査の一環だったな

冗談じゃない
せっかくセーラー戦士と
セックスできたんだ
しっかりと堪能させてもらう

ズニュ

ズブ

俺のちんぽに突かれて漏れる
ウラヌスの甘い吐息とか
絡みついてくる膣壁とか

この瞬間をしっかりと
楽しまないとな
二度とできない
経験かもしれないんだぞ

それは光栄だ
処女を奪った男として
死んだ後もウラヌスの記憶に
永遠に残れるだろうからな

この変態め！
顔は覚えたぞ
最初にお前を殺してやろう

あんっ
あっ
あんっ
ズニ
ズニ
ズニ

タリスマンが
見付からないのは
残念だが限界だ
射精するぞ

男の味を
しっかり覚えるんだぞ！
これが精液を
子宮に浴びる感覚だ！

あっ

あっ

ひんっ イッ イクッ！
身体が精液を喜んでいる
あんっ 気持ちいい！

ドピュ

どうしてこんなに気持ちいいんだ
全身が快感に震えている
こんな快感を知っても
僕は僕のままでいられるのか…

次は俺が相手だ
タリスマンは俺が見つけてやろう

うっ

俺はバックでするのが好きなんだ
生意気なセーラー戦士を
屈辱的な格好で
犯したいって夢想していたんだ
どうだ悔しいか？

くっ！こんな体勢で
するのか

ふんっ
黙って続けろ！

ズブ
ズブ

精液が欲しいか？
だったらもっと尻を
突き出せ

もちもちして さわり心地のいい尻だ
案外と肉付きがいいな
可愛い肛門がヒクヒクしているぞ

余計なお世話だ
さっさと射精しろ

タリスマンは
もしかして
肛門の中かな？

そんなところに
あるわけがないだろ
うっ！
拡げるんじゃない！

ムギュ

ズ
ズ

こんな俺だって
条件が整えば
セーラー戦士を
屈服させられるんだ
自信が湧いてきたぞ

あっ
あっ
あっ

ひんっ！
そんなに激しく突き入れるな！
あんっ悔しい
どうしてこんなに気持ちいいんだ！

ううっ
ああんっ！
なにを言っている
僕は屈してなどいない！

負けを認めたら
精液を恵んで
やってもいいぞ

あっ

んっ

しつこいぞ
僕は貴様になんて
負けない
あんっ はんっ！

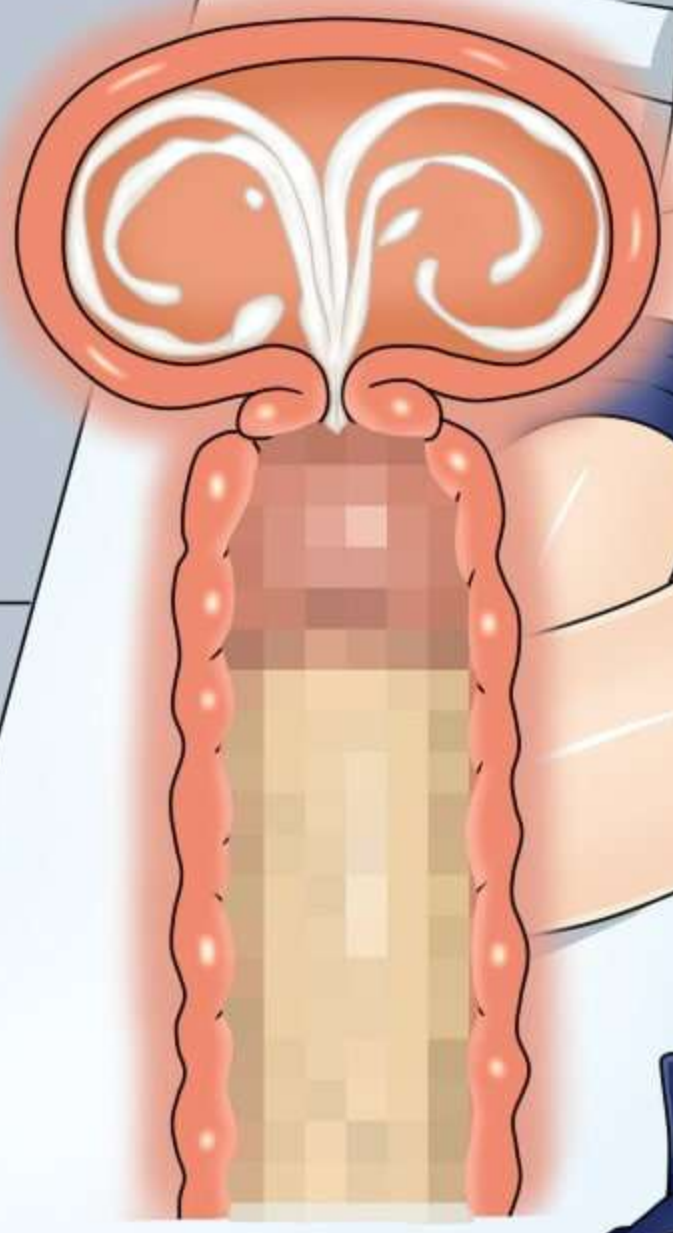
ううっ 駄目だ！
おまんこの具合が良過ぎて
射精しそうだ

頑固な奴め
身体は屈服しているのに
それを決して
認めようとはしない

あっ ああっ！
ざまあみろ
貴様の負けだ

ズ
ズ
ズ

ドプッ



あっ

あっ

俺様の精液が欲しいか？

仕方ない精液を恵んでやろう俺の子種を一滴残らず受け取れ！

射精したければ勝手にしろふふっ僕は屈しなかったぞ

ひんっ！気持ちいい❤

子宮に精液を浴びせられるたびに僕が作り替えられていく気がする耐えて見せる・・・きっと・・・

ヒグッ

ズブブ

あっ あんっ
激しい！
少しは加減しろ

いい声で鳴くじゃないか
こうやってセックスしてみれば
セーラー戦士もただの女だな

あっ

はっ

あっ

ウラヌス攻略法を
見つけた俺たちは
出世間違いなしだ

パン

パン

冗談はよせ
いつでもお前らを
倒すことはできる
ちょっと付き合って
やっているだけだ

まだ威勢のよさだけは失っていないようだがおまんこはちんぽを嬉しそうにくわえ込んですっかり従順になっているぞ

そうやって勝った気になっていればいい予定通りだ明日にはこのアジトは解体しているはずだからな

あっ

はっ

それはまはずいなさっさと撤退しようだがその前にウラヌスのおまんこに射精しないとな

ズブ

ズブ

くっ勝手にしろ！

いいなあ
気持ちよさそうだ
俺も一緒にいいかなあ？

ああ いいぞ
この減らず口に
突っ込んでやれよ

ウラヌスのフェラはどうだ？
遠慮は無用だ
喉奥にガンガン突っ込んでやれ

すごく巧いぞ
淫乱ウラヌスは
精液が欲しくて必死のようだ

前と後ろから責められて
屈辱を感じているのに
どうしてこんなに気持ちいいんだ

うっ

コプッ

カプッ

ズニー

ズニー

残念だが
タリスマンは
見つからないようだ

悔しいな
同時に射精してやろうぜ！

ああ いいぞ
射精するぞ！

うぐっ

うっ

ビュルル

ドプッ

気持ちいい❤
精液で身体が満たされる・・・
全身が快楽で
溶けていくような心地よさだ
こんなに臭い吐き気を
催すような精液が美味しい

セーラーウラヌスを
性のおもちゃにできる俺たって
やっぱり 優秀なんじゃないか？

ああ 俺も
そう思えてきたぞ

はぁはぁ

うぅっ
勝手にほざいていろ
お前たちの組織はじきに
消滅するんだからな…

だが どうやって
この状況から抜け出せばいいんだ？
このままだと僕は…

ターン

ほら
股を開いて
良く見せてよ

くっ 止めろ
拡げるな！

おっ

あっ

あっ

小陰唇とか大陰唇とか
女性器はよくわからないけれど
はっきりと見えるなあ
あっ そうだ
挿入しながら ウラヌスに
説明してほしいなあ

いやらしいなあ
ウラヌスまんこが
ボクのおちんちんを
くわえ込んでいるのが
良く見えるなあ

うるさい
黙れ！

ズニ

ズプ

ヌブ

あっ
記念に撮影しても
いいかなあ？

駄目だ
撮るな！

実際問題
タリスマンなんて
ボクはどうでもいいんだ
ウラヌスとセックス
するほうが
大切だよね

セーラー戦士で
ウラヌスが一番好きなんだ
ボーイッシュで
格好いいからさ

僕のことが
好きなのか？
だったら隙を見て
逃がしてくれないか

はっ

あっ

えっ
逃げるの？

ズブ

ズブ

うまく脱出できるかなあ
仲間に見つかったら
ボクが大変な目に合うよね

もし逃がしたら
もうセックスできない
それは嫌だなあ・・・
よね

くっ 貴様…
提案した僕が
バカだった…

こんなことはしたくないのに
止められない
僕はこのふざけた奴の精液が
欲しいと思っている・・・

うっ

はっ

ズニ

ズブ

ウラヌスの腰つき エッチだね
ボクの精液を搾り取ろうと
懸命に腰を動かしているんだね
きっと 天国って
こんなとこ ろなんだろうね

おねだりしてくれたら
射精するよ

お前の精液が
欲しいんだ
僕の中に
射精してくれ

もっと射精したくなるように
おねだりしないと
射精できないよ
用意してきた
このメモを読んでくれる？

あっ
あっ

ズニ
ズニ
ズニ

僕のおまんこは
キミのおちんちん専用なんだ
射精してくれないと
もうキスしてやらないぞ

うん 射精するよ
ウラヌスの中に
全部射精するよ！

あっ

ねえ キミの特濃精液
ウラヌスの我儘まんこに
ピュッピュッって射精して❤

あんっ
精液が中に！
ううっ イクッ❤

ドピュ

気持ちいい・・・
ああっ 子宮が熱い
こんな奴の精液なのに
気持ち良過ぎる・・・

うっ こんな格好で
犯されたくはない
下ろせ

それに
お前が挿入しているのは
尻の穴だぞ
わかっているのか？

問題ない
すぐに前にも
入れてやろう

ほら新人！
お前はおまんこに
挿入しろ

はい
頑張ります！

はっ

んっ

まっ

ズブ

ズブ

あっ あれっ？
上手く
入らないなあ

うぅっ 貴様
なんだこれは

なんだ
お前 童貞か？

はい
そうです

しょうがない
俺が手伝ってやるよ

童貞君に
穴の位置が分かるように
拡げてあげたんだよ

これで膣の位置が
良くわかるだろ

くぱぁ

はい これなら
挿入できそうです！

ウラヌスの中は
どうだ？

はい とっても
気持ちいいです
温かくておまんこ全体で
僕のちんちんを
包み込んできます

ウラヌス ありがとう
素晴らしい
初体験になったよ

お前は敵だ
礼を言われる
筋合いはない

ほら 下手くそ
しっかり腰を
打ち付けろ

あっ うん
ウラヌスに認めて
もらえるように頑張るよ

おっ

あっ

あっ

ズニ

ズニ

ズニ

ズブ

ズプ

ふたりで勝手に気分を出しているんじゃないぞ
お前はケツ穴にペニスを突っ込まれているんだよ

ほら もっと肛門で俺のペニスをしごけ！

くっ うぐっ
勝手なことを言うな！
うっ 深い！

おっ

おっ

いいか新入り
同時に射精するぞ

はい！

ひんっ
イクイクイグッッッ！！

どぴゅるる

どぴゅ

もう帰っていいぞ
約束通り解放しよう

残念だが タリスマンは
見つからないようだ
もう拘束しておく
理由はない

いいのか？
お前たちの組織を
壊滅させるために
戻ってくるぞ

ふふふっ
確かにそうかも
しれないな

したいようにすれば
戻ってくればまた捕縛して
俺たちの慰み者にしてやろう

後悔するぞ
愚かなやつらだ
だから下っ端の
ままなんだ

あっあぁんっ！
おい！
ちゃんとペニスを
勃起させろ

お前には最低でも
三回は射精してもらうぞ
精液で子宮を満たしてもらうからな

ひっ！
そんなに何度も
射精できないって

お前たちが僕に使った
怪しい薬が原因だ
しっかり責任を
取ってもらうぞ

あっ

んっ

ズニ

ズニ

おや やっぱり
ウラヌスは
今日も来ているのか

ちょうどいい
次はお前だ
準備はできているか？

仕方がない
次は俺が相手をするよ
ウラヌスは
すっかりセックス中毒だな

ふふふっ

あっ

はっ

はっ

この組織は
すぐに僕が解体する
その前にいい思いを
させてやっているだけだ
感謝しろ

お前たちのうち
何人が生き残れるかな
ふふふっ

ズプ
ズプ

ドプッ

いい思い？
だがそう何度も
射精を強要されてもなあ…

あっ もう出そうだ
ウラヌスの中に
射精するぞ！

ひっ

あっ ああっ！
精液がキタ！
気持ちいい
あんっ イクッイグッ❤

ぎっ

ううっ
ウラヌスのおまんこ
精液を最後の一滴まで
搾り取ろうと
うねっているぞ

ズププ

ズニ

ああっ 快感に
意識が飛びそうだ
また イクッ❤

次はお前の番だ
僕の動きに合わせて
腰を突き上げるんだぞ

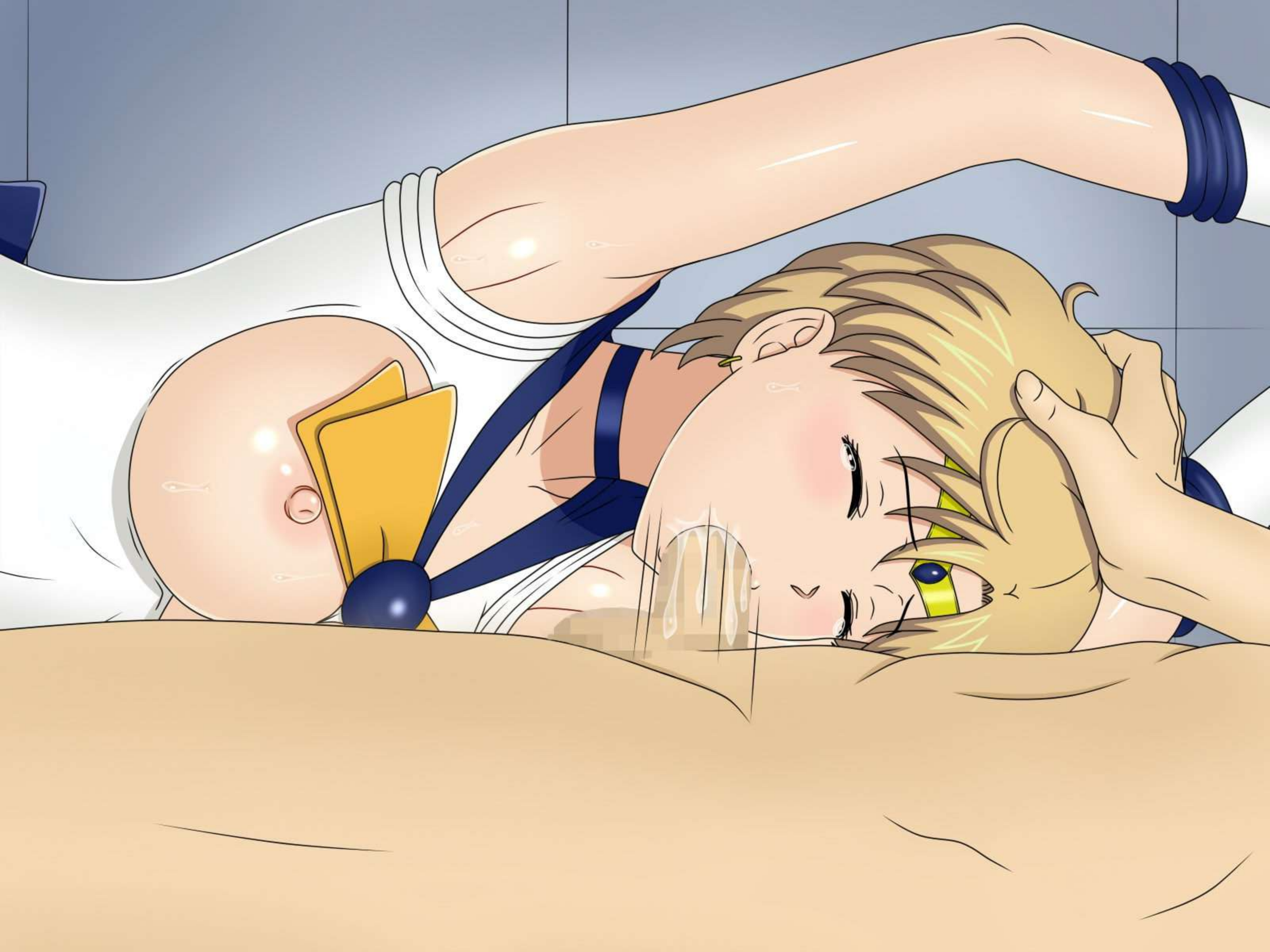
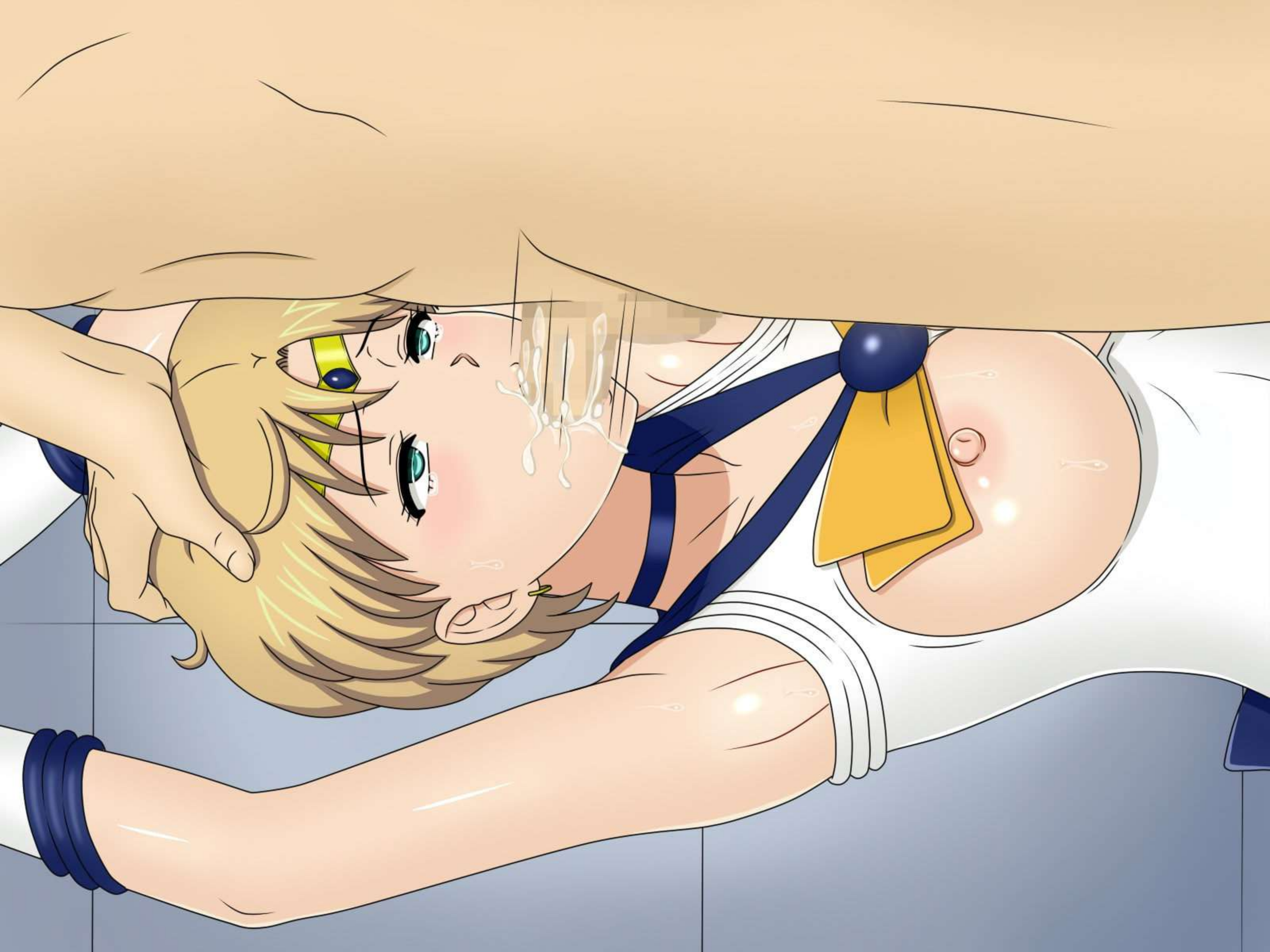
わかったよ
セックスの快楽に溺れた
精液ジャンキーのくせに
注文が多いな

あっ

おっ

おっ

この快楽に身を任すことだけが
正しいことに思える
ネプチューンを誘うのはどうだろう
素晴らしい思い付きじゃあないか

脳が焼けつくような快感だ
ああっ
ペニスに貫かれることだけしか考えられない
ああっ もっと僕に射精してくれ
僕の子宮を精液で満たしてくれ・・・

ズブズブ